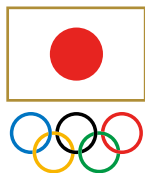


Newsletter #1

北海道・札幌 2030 ニュースレター | 第 1 号

第 2 回北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会
「共生社会」をテーマに議論



北海道・札幌

冬季オリンピック・
パラリンピック
の招致を目指しています



写真 / 札幌市オリンピック・パラリンピック教育 (2022年6月6日実施)

発行: 札幌市・公益財団法人日本オリンピック委員会
発行日: 2022年6月23日



第2回北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック プロモーション委員会開催

6月10日（金）、札幌市内で第2回北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会が開催されました。

本会議には会場とオンライン合わせて、31名の委員が出席。岩田圭剛会長の進行のもと、まず第1回委員会の内容を振り返り、意見として多く寄せられた「SDGs」「共生社会」「経済・まちづくり」「レガシー」を、今後の委員会の主要テーマとしていくことが発表されました。今回のテーマは「共生社会」です。

■ 基調発言

< マセソン美季委員 >

初めに、パラリンピアンで国際パラリンピック委員会（IPC）理事でもあるマセソン美季委員が「私たちが目指したい共生社会の姿とその実現に向けた取り組みについて」と題し、基調発言を行いました。現在カナダ在住であるマセソン委員は、「-30℃でも外に出たくなる魅力がたくさんある」という現地での体験を通し、札幌に期待する街づくりの方針として「除雪などの困りごとを減らすための仕組みづくりや、スポーツ・雪遊びといった雪国ならではの冬の楽しみ方が

実感できる取り組みを増やすこと」「冬場のバスサービスやモビリティを向上させる取り組みや、雪冷房のように環境と経済の好循環ができるテクノロジーを世界に向けて発信する機会になれば」と提案。そして、札幌2030大会の招致が多くの方々に支持されるために必要な3つのキーワードとして「共生社会の実現」「情報公開と丁寧な対話」「自然との共存、共生」を挙げ、パラリンピック教育が社会にもたらす価値を説明。「雪がある生活が快適で、冬が待ち遠しくなる街づくりを実現することで、世界に誇れる街SAPPOROに信頼と愛着が深まるような共生社会を目指して、皆さんとともに活動していきたい」と述べました。

< 河合純一委員 >

続いて、同じくパラリンピアンで日本パラリンピック委員会の委員長でもある河合純一委員が「共生社会の実現に向けて～東京2020から北海道・札幌2030へ～」と題し、基調発言を行いました。東京2020パラリンピック日本代表選手団団長も務めた河合委員はその経験もふまえ、「共生社会の実現のためにパラリンピック、アスリートは極めて重要な役割を果たしている」と強調。また、共生社会の実現のための3つのステップとして「knowing」「doing」「being」を挙げた河合委員は「東京2020大会を経て国民の皆さんは今、障がい者に対して『knowing』という第1段階だと思いますが、『doing』でどう行動しようか悩んでいるとよく聞く。しかし、これは意識すればできることであって、本当は困っている人がいたら誰もが自然に助け合える『being』な状態を目指していくことを前提に、『doing』という第2段階をいつまでに・どのようにクリアできればいいかと考えていくことが重要」と述べました。



マセソン美季委員（オンライン参加）



基調講演する河合純一委員

そして、目指すべき共生社会として「個性をすりつぶして混ぜり合うミックスジュース型ではなく、それぞれの良さを生かしあえるフルーツポンチ型の共生社会をともに目指すことが、皆さんと一緒に誰もが自分らしく生きられる社会につながっていくのではないか」と呼びかけました。

■意見交換

次にマセソン委員、河合委員の基調発言を受けての意見交換が行われ、出席したメンバーからは障がいの観点だけでなく民族・文化、ジェンダーの視点からも共生社会の実現へ向けた意見が寄せられました。

「北海道内では障がい者や子供たちがスポーツを楽しめる環境がまだ十分ではない。幼児期からあらゆる機会でも運動に親しむことができる環境を整えることが非常に重要。」

「親御さんの世代にはまだ障がい者が守られるべき存在、かわいそうな存在という概念がどうしてもあるため、障がい者のことをもっと知ってもらい、触れてもらえる機会を作れたら。」

「バリアフリーや共生社会を考えるにあたって、社会の壁を感じたことがない人だけで考えてしまう日本のプロセスが一番のバリア。いろいろな人たちが準備の段階から中心的に関わって進めていく、そうすれば本当に素晴らしい大会、社会ができていくのではないか。」

「先住民族の考え方は世界中にあり、日本の文化にも自然と共生した素敵な文化がある。それをみんなで思い出して、新たな発信をしていけたら多民族、多文化、共生が実現される契機になるのでは。」

「多様な人が安心して心地よく過ごすためには、やはりまずは知るこ

と。知るためには関わることで肌で感じる。その重要性を感じている。子供たちの教育は大事で、行動を一緒にすることによって分かること、気づくことはたくさんある。そんな機会をオリンピック・パラリンピックを通してたくさん作っていただきたい。」

「東京 2020 大会でパラアスリートのために作った施設において、色々な所に目配せをし、利用者サイドに立った考え方をしていくことが非常に大事だということを痛感。同時に行政や色々な方にご理解をいただくためにも、パラリンピックをきっかけとして共生社会に取り組んでいこうということ強く主張していくことが非常に社会にとっても大きなインパクトを得ることになると思う。」

「日本の教育はどんどん変わりつつある。先生たちも悩みながらやっている。様々な子たちとどのように向き合っていくのかということは、みんなすごく悩みながらやってきたが、まさにこのインクルーシブなもの、考え方というものが、実はこれからの大きなヒントになる。それを 8 年後にまさにパラリンピックという形で実現しようとする中で教育から変わっていくというのはすごく大切だと思う。」

「皆様のお話をお聞きして、まさにこのオリンピック・パラリンピック招致があって、この共生の話が深掘りされ、すごく勉強の機会が



上から岩田圭剛会長、牧野准子委員、菅谷とも子委員



会場入り口の様子。新たなデザインの招致ポスターが置かれていた。

できているんだなということをもっと感じた。オリンピックというゴールに向かって続けていくということは、オリンピックを越えてからもきつと成立する良い事業になっていくのではないかな。まずは今日のような機会に皆さんと垣根なくお話をしながら気づきを築き上げていくということが大切。」

「パラリンピックを街でやることによってハード面が必ず進んでいく。そして心のバリアフリーという面でも効果が必ずあるということが証明できるのではないかな。一方で、東京オリンピックが終わって間もないのにまたオリンピックの話かということがあるかもしれないが、東京オリンピックでやってきたことの課題・反省点をお伺いしたことによって、むしろこれが継続してやっていくことに意味があるのではないかな。」

「街づくりの関係で、具体的な目標値をもって 2030 年まで目指していくことが非常に重要なこと。ハード、ソフト、そしてやはり教育の面でパラリンピックの開催ということがこの札幌にとって非常に大きな意味を持つ。2030 年に何かを実現していくためにはやはり今

日から、明日から、できることに取り組んで行かなければならない。プロモーション活動と同時にこの目標に向かってどういうプロセスを作っていくのか、ここを皆さんと共有させていただいて進めていくことが重要であるのではないかなと思う。」

「共生社会の実現に向けてぜひ、札幌 2030 大会は我々が大きく変わるチャンスにしていかなければいけない。東京 2020 大会のレガシーをしっかりと受け継いで、2030 年につなげていくことは我々の責務だと思っている。」

プロモーション委員会では、委員の皆さまからいただいた意見をもとに、今後も議論を一層深め、市民・道民・国民の共感を得られる 2030 年大会を描いていきます。次回の会議は「レガシー」をテーマに、7 月 26 日（火）に開催予定です。



会議後の囲み取材の様子。多くのメディアが取材に訪れた。左から岩田圭剛会長、河合純一委員



北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピック 冬季競技大会招致の機運醸成活動に関する自治体・非営利団体用のガイドラインは「北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致サイト」の「各種資料」ページをご参照ください。

URL : <https://winter-hokkaido-sapporo.jp/index/page/id/195>

※：URL をクリックするとページへ飛べます。

【表紙について】

札幌オリンピックミュージアムで 2022 年 6 月 6 日、小学生を対象にしたオリンピック・パラリンピック教育が実施されました。これは札幌市が推進する「札幌市オリンピック・パラリンピック教育」の一環として市内の小学生向けに開催されており、北海道オール・オリンピアンズに参画するオリンピアン、パラリンピアンを講師に迎え、オリンピック・パラリンピック教育、大倉山ジャンプ競技場の見学、ミュージアム内での展示鑑賞と競技体験を組み合わせたプログラムとなっています。

詳しくはこちら
<https://winter-hokkaido-sapporo.jp/news/detail/id/731>